

医療ソーシャルワーカー (MSW) の紹介

社会福祉士 川俣 彩



患者さんが安心して次の生活を展望できるよう、お手伝いさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

社会福祉士 伊藤 百花



5月に石和共立病院から異動してきました、SW2年目の伊藤百花です。日々SWとして成長していきたいです。よろしくお願いいたします。

社会福祉士 石井 実希



4月に入職しました、1年目SWの石井実希です。日々沢山の学びの中で成長していきたいと思っております。

レスパイト入院のご案内

甲府共立病院では、2021年4月よりレスパイト入院の受け入れを開始しました。地域包括ケア病棟では、在宅介護をされている介護者の休息をはじめ、病気や怪我、出産、旅行、冠婚葬祭など家庭の事情により一時的に在宅看護が困難となる場合に入院の受け入れを行っています。

【ご利用いただける方】

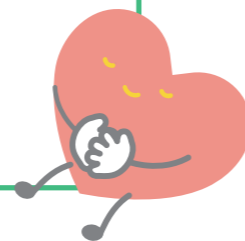
- ◆ 在宅医から要請がある方
- ◆ 介護保険によるショートステイ利用が困難な方
- ◆ 在宅で医療管理が必要な方
人工呼吸器使用や在宅酸素療養中、経鼻・胃瘻等による栄養管理、インスリンの管理
人工肛門管理、褥瘡処置、痰吸引などが必要な方
- ◆ 定期透析を行っている方
- ◆ その他、ご相談・ご要望に応じて対応いたします

【レスパイト入院の特徴及びお願い】

- ◆ 入院日数：原則 3日～10日間
- ◆ 入院間隔：原則最終利用日から3ヶ月
- ◆ 入院日：土日祝日、主治医の不在日を除く平日（入院：10時頃 退院：10時頃）

【レスパイト入院までの流れ】

- ◆ ご利用希望日の2週間前までに、患者サポートセンター（055-226-3135 直通）へ申し込みをお願いします。申込書は、患者サポートセンターに用意しておりますので、必要時はお申し出ください。甲府共立病院ホームページからもダウンロードできます。
* 緊急時でもできる限り対応いたします。まずは、電話にてご相談ください。
- ◆ 申し込み後、地域包括ケア病棟入院判定会議で検討し、申込者へ連絡いたします。



患者サポートセンターより

甲府共立診療所のご案内

診療科：内科・甲状腺外科・乳腺外科・泌尿器科
整形外科・心血管外科・耳鼻科・小児科
皮膚科・眼科

甲府共立診療所（代表）055-221-1000
（平日・受付時間内・小児科発熱者対応問い合わせ先）
電話での対応時間 9:00～17:00

甲府共立病院のご案内

診療科：外科・肛門外科・産婦人科・精神科
緊急患者対応

※精神科は、完全予約制です。現在、新患の受け入れは中止しております。

甲府共立病院（代表）055-226-3131
（緊急受診患者・発熱者対応問い合わせ先）
24時間電話相談可



日本医療機能評価機構 認定病院 甲府共立病院 Kofu-Kyoritsu Hospital

Regional Medical Liaison Office
News and magazine

地域連携だより

地域の皆様が安心して治療が受けられるように



目次

- P2 患者サポートセンター長のご挨拶
- P2,3 研修医紹介
- P4 医療ソーシャルワーカー (MSW) の紹介
- P4 レスパイト入院のご案内
- p4 患者サポートセンターよりお知らせ

2022

6

June



公益社団法人 山梨勤労者医療協会

患者サポートセンター長のご挨拶

地域の医療機関・介護事業所の皆様、いつも当院の医療活動へのご理解・ご協力誠にありがとうございます。

さて、高齢化が一層すすむなか、今まで以上に医療と介護の連携が求められる時代です。医療の側で見れば、多疾患併存はあたりまえ、急性期疾患の治療で医学モデルの範疇では問題解決していても、それだけではその人にとって解決にならない、生活の場に戻れない、そういったことを日々実感しています。介護の現場から見れば、医療依存度の高い方や、慢性疾患の急性増悪を繰り返す方、終末期へ向かう方などの生活を日常的に支えなければならないケースが増加しています。

地域に暮らす方々には、高齢になっても、認知症になっても、病状が思わしくなくても、住み慣れた我が家で、地域で暮らしたい、できればそこから旅立ちたいと願っている方が多くおられます。

地域の病院やかかりつけ医、様々な介護事業所が、それぞれの機能や役割を果たしながら、医療機関に求められるのは、医療が必要なときに、単に最善の医療を行うだけでなく、時には、その人にとって最適の療養環境で最善の医療が受けられるよう、連携を強めて医療を行うことだと思っております。

当院は二次救急病院、地域包括ケア病棟を持つ病院、訪問診療に携わる医師がいる病院として、甲府共立病院に求められる機能・役割をしっかりと自覚し、また、地域住民や医療機関・介護事業所の方々のご意見・ご要望にしっかり耳を傾け、今後とも皆様との連携を強めて参りたいと思っております。

皆様方の益々のご発展をお祈りいたします。今年度もよろしくお祈りいたします。

平田 理



(左から) 原田連携室師長、梅景医療福祉相談室室長、平田センター長、中村副センター長、齋藤心理相談室室長

研修医紹介

・医師を目指したきっかけ

人生を大きく左右するイベントである病気を治し、健康を守る医師という職業に憧れ、医師を目指しました。

・甲府共立病院で学びたいこと

疾患の治療や医師として必要な知識は勿論ですが、医師としての振る舞いや心がけ、患者の生活背景にまでアプローチする力を養いたいです。

・将来どんな医師になりたいか

患者を前にして自信を持って診療にすることのできる、頼りがいのある医師にを目指します。



奥山 泰樹

・医師を目指したきっかけ

漫画「仁-JIN-」を見て、「医者になったらできること、カッコいい！」というのが一番のきっかけです。もともと歴史や社会システムに興味を持っていたのですが、医師という職業であれば科学、社会、政治と幅広い分野での活躍ができると思い目指しました。

・甲府共立病院で学びたいこと

医療と社会の関わりを学びたいです。病院といえば、「病気を治す場所」というイメージを持つことが普通かと思いますが、現場では病気以外の様々な問題に直面することが多いと思います。そういった問題に対してのアプローチ方法を学びたいです。

・将来どんな医師になりたいか

科学的な医療の分野を追いかけるより、社会と医療をつなぐ医師になりたいと思います。またバックパック旅行でお世話になった様々な国に恩返しができる存在になりたいです。



花輪 大介

・医師を目指したきっかけ

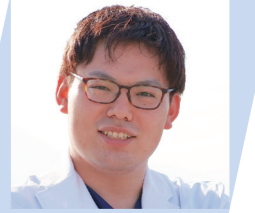
幼少期に、私の父がガンを患っており、共に過ごした長い闘病生活が医師を志すきっかけになりました。父は他界しましたが、その後の自身と家族が生活していくなかで、同じような境遇のひとを少しでも減らしたいと思うようになり、医師を志す気持ちがさらに強くなりました。

・甲府共立病院で学びたいこと

よく使われる「患者さんに寄りそう」という言葉には多くの側面があると感じています。その言葉の意味を理解し実践するために、多角的な視点と知識を身につけていきたいと思っています。

・将来どんな医師になりたいか

まずは努力を惜しまない医師になりたいと思います。医師としてはもちろんですが人間としてもまだまだ未熟であり、大きく成長するためにもひとつひとつのことに真面目に取り組み、着実に力をつけていきたいと思っています。



森下 彰友

・医師を目指したきっかけ

最初のきっかけは、小学生の時に聞いた産婦人科医の先生の講演がすごく印象的であこがれを抱いたことでした。高校生になるタイミングで山梨県に越してきて、地域枠推薦という制度を利用し医師になるという夢を現実にすることができました。

・甲府共立病院で学びたいこと

民医連の病院だからこそ出会える患者さんとの関わりを通して、普通に暮らしているだけでは見えて来ない社会の問題に向き合っていきたいです。

・将来どんな医師になりたいか

患者さんに真摯に向き合い、信頼される医師になるために、まずはしっかり勉強して知識を身につけることで自信につながれたらと思います。



長田のぞみ

・医師を目指したきっかけ

幼い頃より耳鼻科関係で定期的に地域の診療所に通院しており次第に医師に対するあこがれが芽生え始めました。また、部活等でサッカーをやっており怪我をすることが多く、そのたびに整形外科のお世話になっていました。不安を持った状態で来院する患者さんに対し優しく接して下さる医師を見ることで自分も同様に地域に根ざした信頼される医師になりたいと考えるようになり医師を目指しました。

・甲府共立病院で学びたいこと

急性期の医療から慢性期、訪問診療に至るまで幅広い病気の知識、患者さんの状態について学びたいと考えています。また、早い段階から多くの手技に触れ、技術の習得を行いたいと考えています。

・将来どんな医師になりたいか

幅広い知識を持つこと、急性期だけではなくその後の慢性期まで患者さんを診ることのできる地域に根ざした医師になりたいと考えています。



渡部 宏毅

・医師を目指したきっかけ

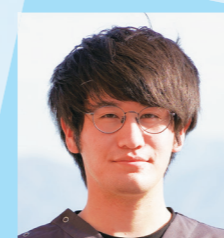
医学研究目的に医学部へ進学しましたが、学生生活を送る中で自分は人と話すことが好きなのだなど気づき、対話が治療に生きる臨床医を目指し始めました。

・甲府共立病院で学びたいこと

民医連が掲げる無差別平等の医療を実現するために、どのような課題があり、どのような工夫が必要か学びたいです。

・将来どんな医師になりたいか

具体的な医師像はまだ定まっていませんが、一人の医師として恥ずかしくない医療が提供出来るようになりたいです。



服部 耕大